

F P 実践力向上 (47)

新紀元社
CFP 伊藤 亮太

欧州経済の現状、将来をつかむ

Q：欧州経済の現状、将来をつかむ主なポイントは。

回答

欧州経済の現状、そして将来の経済動向を見るうえでのポイントは、『ギリシャ債務問題の行方』、『欧州安定メカニズムの融資能力拡充』、『新興国向けの輸出がいかに増加するか』の3点になります。

ご存知の通り、欧州危機は、2009年にギリシャで政権交代があった際に、国家財政の粉飾が発覚し、実際には多額の財政赤字が存在することが明るみになったことが発端になります。欧州ではいまだこの債務危機の抜本的な解決は見出されておらず、依然厳しい状況が続いており、今後のギリシャ債務問題がどう進展していくのかに注目する必要があります。

今年2月21日にギリシャ第2次支援策の合意がなされたことにより、短期的にはデフォルトを回避することができる見込みとなりました。しかしながら、今年もマイナス成長見込みであること、失業率が高止まりしている点を考慮すると、予断を許せない状況が続いていることは間違いありません。

そのため、今後のギリシャ債務問題などへの対

応策の一つとして、7月に発足を予定する「欧州安定メカニズムESM」にも注目をしておく必要があります。これは、現在ある緊急支援制度「欧州安定化基金」と合わせて融資能力を拡充させ、危機対応にあたる役割を担います。合計で7500億ユーロへ融資拡充を見込んでいますが、ドイツなどの反対もあるため、果たしてその通り拡充できるのかが欧州の今後を決める重要なポイントといえるでしょう。

その他、欧州経済の下支え要因も押さえておきましょう。欧州では緊縮財政が進む結果、当面経済状況はおもわしくない状況が続くと想定されますが、そんな中において「新興国向けの輸出の増加」が経済の下支えとなっているのも事実です。新興国の中には、金融危機や債務危機の影響をあまり受けずに、内需拡大を中心として経済成長を堅調に遂げている国もあります。特にアジアでその傾向が見られ、その結果、貿易を通じて欧州経済の下支えの役割を担っているのです。

債務危機の問題で当面は欧州経済が大きく回復するのは難しい状況といえますが、新興国に支えられる状況が今後も続くと想定されますし、雇用の改善などが明確になってくれば、10年単位の長期で見た場合にはいずれ欧州経済復活も見えてくるといえるのではないのでしょうか。